

令和7年度第1回花巻市博物館協議会 会議録

1 開催日時

令和7年7月4日（金） 午後1時30分～午後2時45分

2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

3 出席者

(1) 委員名 7名

佐藤由紀男委員（会長）、伊藤晴二委員（会長職務代理者）、中島健次委員、
鎌田愛子委員、門馬優子委員、大原皓二委員、伊藤金人委員

(2) 事務局（博物館） 5名

佐藤勝教育長、中村良幸館長、村田豊隆副館長、菊池宏美管理係長、
小原伸博学芸係長

4 議 事

(1) 令和6年度事業報告について

(2) 令和7年度事業の進捗状況について

5 議 事 録

(1) 開会（進行：村田豊隆副館長）

〔協議会成立報告（委員10名中7名出席）〕

(2) 挨拶

（佐藤勝教育長）

委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

おかげさまで花巻市博物館は、今年、開館から21年目を迎えることができました。

昨年は20周年記念ということで、大変大きな記念事業を実施することができました。特に特別展を二つ実施し、そのうちの一つ「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展は様々な機関や様々な方々のご協力を得て、7月20日から2ヶ月間で79,000人という大勢の方々に来ていただきました。

一方で、令和4年度から花巻市史の編さんに関する市史編さん室を設置しておりまして、市史の編さん委員会を発足し、これまで6回開催しながら、現在半分くらいの専門部会が立

ち上がり活動を始めておりますし、残る部会については、今年度中を目途に立ち上げ、いよいよ調査を進めたいと思いますし、またそれに先立って、いわゆる児童向けの市史については、執筆に入っているという段階でございます。

本日は、令和6年度事業、そして今年度事業についてお諮りし、ご意見をいただきたいと存じます。もっと市民の方々に関心を持っていただくということと、博物館ならではの調査研究、こういったものを深めながら、博物館としての力量、実績をどのように積んでいけばいいのかなということも含めまして、忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

(3) 議事

(村田豊隆副館長)

これから議事に入ります。議長は、規則の第9条第2項の規定により、当協議会の会長であります佐藤由紀男様にお願いいたします。

(佐藤由紀男会長)

議事を進めさせていただきます。昨年度は20周年ということで特別な年でしたけども、今年度はいわゆる通例通常業務といいますか、そうした形ではありますけども、様々なことで忌憚ないご意見をお伺いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして花巻市審議会等の会議の公開に関する指針第4項により、委員会の公開非公開の決定について委員に諮ることが定められています。本協議会は指針第3項に定める公開しないことができる要件には該当しないことから、当協議会を公開とすることによろしいですね。

(異議なしの声)

公開いたします。

それでは議事に入ります。令和6年度の事業報告について議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

[小原伸博学芸係長が資料1～10ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

それではご質問、ご意見のある委員の方はご発言をお願いします。

(伊藤晴二委員)

教職員との連絡会議・研修会についてですが、市内の小中学校の研究会や研修会を実施したとありますが、中身がどんなことなのかお話ししていただければと思います。

もう一つ、修学旅行・校外学習等の見学対応についてですが、市内では、ほとんどが小

学校で中学校の利用が少ないというのは、何か理由があるのでしょうか。小学校は小学校でももちろん印象が強まると思うのですが、中学校になればまた深さを求めて勉強してほしいと思うのですが、中学校の利用が少ない理由は何かわからないかもしれません、予想で結構ですのでお願いしたいと思います。

（小原伸博学芸係長）

教職員との連絡会議・研修会でどのようなことをしたかというご質問についてですが、小学生や中学生が博物館を見学する際に、ワークシートを使用して見学をしているのですが、そのワークシートが低学年から高学年の各児童にわかりやすいのかどうかというところをポイントとして見学してもらい、先生方に改善ポイントを考えていただいたというものになります。「ワークシートの言葉の表現が小学校低学年にはちょっと難しいのではないか」などの意見がありましたし、「高学年にはもっと難しい問題を出してもいいのではないか」というような意見も出ました。

（村田豊隆副館長）

それでは二つ目の修学旅行などの見学につきまして、小学校はある程度見学に来られていますが、中学校が見受けられないというようなところの要因というところでございますけれども、直接学校に聞き取りなどということをしたわけではないので、推測ということにはなってしまいますが、小学校ですと授業に関連した部分とある程度近いといったところもあり、また時代の中の花巻の歴史というところで比較して見ていただくという中では、ある程度身近な部分として捉えていただけているのかなと思うのですが、中学校になると、学校の授業との関連性というところになると、少し全国的な歴史にウェイトが行ってしまっているのではないかなという中で、そういったところではなかなか関連性がうまく連携できていないのかなというところで、それが見学するにも表れてきているのではないかなというふうには感じているところではございますが、調査しているところではございませんので、実態としては小学校の方が見学の中心になっているというような状況です。

（佐藤由紀男会長）

他にはいかがでしょうか。

（鎌田愛子委員）

博物館実習の開催ということで、毎回行われているのだと思いますけれども実習生を見ると、県外の京都とか秋田という感じでいらしてますけれども、これはもう全国的に募集しているとか実施していますよと周知してのことか、それとも実習者から実習させてくださいとくるものなのか、どういったものなのでしょう。そして、実習内容は、花巻市の勉強

をするのでしょうか。

（小原伸博学芸係長）

博物館実習の募集についてでしたけれども、概ね全国の大学で花巻出身の方が実習にいられています。実家から通えるまたは自分で通えるような方ということで受け入れとなっております。

内容としましては花巻市博物館で花巻市の歴史あとは美術工芸、考古なども分野それぞれ担当学芸員がおりますので、それらの実習、例えば実物の実測などの実習をしております。

（村田豊隆副館長）

補足でございますが、実際には今申し上げたように博物館に1週間程度通っていただくという部分の条件がある中で、市内出身の方が中心というところになっているところがございますけれども、募集としましては、ホームページに掲載して全国的に発信をしておりますので、市外の方は受講できないということではないというところです。ただ、その通り1週間のカリキュラムを消化していただける方ということになりますので、そうすると通える方が中心になってくるのかなと思います。

そしてやはり博物館実習ですので、所定の単位を取得していただくということになりますので、こちらは博物館法の規則にのっとりカリキュラムを実施するというような形になっておりますので、その中で花巻市の地域性のあるような内容も盛り込んでやっているというような状況でございます。

（佐藤由紀男会長）

博物館実習ですと、こちらは花巻に限定していませんけども、そうですね7割ぐらいの館は、例えば花巻市の博物館ですと花巻市民に限定する、親が住んでいるか、あるいはここに住んでいる方に限定しています。要はそれだけ負担を博物館にかけるということになりますので、自分の地域に戻ってきてそうしたことをしていただける方を養成するといえますか、それも博物館として大事なことで、その時に出身地というのが前提になるというところが多いというのが実態ですね。

他にはいかがでしょうか。

（門馬優子委員）

出前授業についてですが、冬場ずっと連続して「昔の道具と暮らし」を小学校3年生が出前授業を受けてらっしゃるようですけど、これは担当の先生と連携を図りながらとありますが、博物館の方からも働きかけているのですか。かなりの小学校3年生が、同じ共通の話題で授業を受けていると思って感心しておりましたけれども、例えば今回、花巻の戦争の話がテーマとして取り上げられていますけれども、そういう場合も博物館の方から学校側の

方に働きかけるっていうようなことはあるのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

4月の初めに、このようなワークショップや出前授業等がありますというチラシを配布し、出前授業など対応できますというように働きかけてかけております。

冬の時期に昔の道具と暮らしが多いのは、小学3年生が単元として昔の道具を知ろうという内容がございまして、それと連動して、博物館で持つ実物資料を観察して、こういったものがあつたかということ勉強しています。

6月からは戦争と花巻についての出前授業についても、同じように働きかけておりまして、要望のあつた学校と日程調整を行い、出前授業に行っております。

(門馬優子委員)

花巻市全体の小学校中学校で共通して学ぶものもありますが、旧町などそれぞれの地域の輩出した偉人や、その方についての学習というのにも対応していただけるのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

湯口小学校、湯口中学校では、多田等観という方について、湯口に関わりのある人物を出前授業として行っておりますし、他にも要望がございましたら、先人の方の出前授業を検討して参りたいと思っております。

(門馬優子委員)

ありがとうございました。

(佐藤由紀男会長)

斎藤宗次郎の日記ですけれども、今読み進めているとのことですが、将来的には翻刻する予定なののでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

斎藤宗次郎が花巻に居住していた時期について、翻刻していく予定です。日記が、生涯かけて膨大な量ですので、花巻に限定してとなります。

(佐藤由紀男会長)

わかりました、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(大原皓二委員)

「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展で8万人近い入館者があつた場合に、花巻市

神楽写真展を開催しました。

今後は、大迫の文化財センターとの連携をとりながら、神楽の展示なども検討してはいきたいとは思っているところでございます。

(村田豊隆副館長)

大迫の文化財センターにおいても神楽を含む民俗芸能の企画展示ということで、実際には10年ほど前ですか早池峰神楽が国指定になって40年目になって、文化財センターの前の広場を会場にして全国神楽大会がありましたが、そのときに花巻の民俗芸能に関しての展示というものをやっております。そういった部分で情報を共有しながら、今後、博物館あるいは文化財センター、その他にも市内にも展示施設がございますので、情報共有と連携を図りながらそういった民俗芸能についても発信していくことは検討したいと考えております。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤晴二委員)

本年度の展示活動の中で、「戦後80年 戦争と花巻」ということで、大変今、タイムリーといえますか、本当にテレビ等を見ていると、子どもの戦争にあった嫌な顔、涙の顔を見て本当にいやな気持ちになりますが、ただ、これはぜひやっぱり皆さんにも見ていただきたい、多くの方々に見ていただきたいというふうに思いますし、加藤昭雄さんの講演と都鳥兄弟が作った映画の上映ですね、大変私も期待をしておりますが、せっかくこうしたものを講演あるいは上映とあって、何か感想といえますか、子どもたちも多分見に来ると思うのですが、何かそういった難しいかもしれませんが、特集や何か広報物になり、子どもたちの感想文をちょっと載せるなり、何かもっと広めていきたいなと、私も地元の方でこの問題を取り上げたことがあるのですが、戦争体験者の中には何も言わない、辛い思いを思い出したくないっていう声もありますし、やっぱり子どもたち次世代に伝えていこうという、そういう想いもある方もいますし、いろんな様々な方が体験がある中で、何かこういう非常に重要な大事なものを何とか何らかの形で残していきたいなと。今後もちろんまだまだ数年後にも当然あるかもしれませんが、いずれそういう思いがちょっと強いので、そういった感想なり要約なり、そういった広報的な活動については、考えてはいないでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

館内でアンケートをとっておりますのでそこに、もし体験談などを記していただければということでお願いしようかなという考えがありますし、今回の展示でも、実際に体験をした2名の方から聞きとりを行ったところを文章にして展示しております。そういったのを

みなさんに見てもらって感想を書いていただきたいなと思っております。

(佐藤勝教育長)

すごく大事なことだと思います。今まで、この花巻の戦争に関しては、生涯学習やいろいろな団体でやってきたのだけれども、その場で終わってしまったということがある。今回はこうやってある程度展示にしたので、80年ということですが、これはおそらく100年だと経験した世代の方々ほとんど多分いらっしゃらなくなるのではないかと思います。ですから今回の展示内容をいかに2次活用できるか、例えば学校に持って行って移動展ができるとか、出前授業などでさらに付加価値をつけるようにするということで、学校の先生に来てもらえれば一番いいなと思っているのですが、まず校長先生方に来てもらうということから始めて、やっぱりどうやって浸透して継続させていくかということが一番でございます。

(佐藤由紀男会長)

例えば出前授業ですとか、そういった活用していくのですとか、そういうのも大事なことですけれども、特に今回図録を作るとか、そうした案にはなっていませんので、そうしたデータ類ですとかにつきましても、例えば紀要の中で、将来的にはきっと市史の中で触れるかなと思うのですけれども、刊行がだいぶ先になるというふうに思われるので、何か少し記録、展示品を含めてですね、何かしら紀要の中に残すとか、何かしら一部を、全部公開できなくてもある程度情報を公開してく術があればよろしいのかなとは思います。

(小原伸博学芸係長)

今後まとめていきたいと思っております。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか

(大原皓二委員)

もう既に展示が終了した部分でありましたけれども、感想を述べさせていただきますと、「酒造りのわざ」展はとても中身もよくて良かったなと思いましたし、それから今後期待していることは、「平山郁夫展」を大いに期待しているところでございます。

そして質問になりますが、来館者の安全確保と施設の景観を維持するため、博物館敷地及び隣接地の樹木の伐採を行うということについて、具体的にお聞きしたいなと思っております。

(菊池宏美管理係長)

博物館正面入り口から見える林の松が枯れてきていて、近くにありますが沼の方にもう倒れて見栄えもとても悪いですし、来館者の方にぶつかる危険ということで、伐採をしようかどうかということで、ご意見などもいただいてまいりました。沼の博物館側のところを今年度伐採する予定にしております。

工法は、枯れた部分だけを伐採ということが、地形上できないので、童話村の方から入りまして、切り倒して行って、最後、博物館正面入口付近まで伐採するという予定にしております。

なお、今後の管理のことも考えまして、伐採のときに作りました作業通路は管理用通路として整備をして、今後も下草刈りなどをしていく予定にしております。実施の時期につきましては、童話村の方でライトアップを毎年やっておりますので、そちらのイベントが終わってからになりますので、11月から伐採業務の方は開始ということを予定しております。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(門馬優子委員)

私はよく童話村の方から入ってくる道が気に入って、入ってくるのですが、こちらの方に歩いてきて正面まで来ないと博物館の立派な看板が見えない。童話村の方に遊びに来た方にも、こっち行けば博物館なのだという、看板の向きが博物館側にあって、博物館を目指していらっしゃる方にははっきりわかるのですが、知らないで初めて来た方には博物館の入口がわかるように、ちょっと向きを考えていただきたいのと、童話村の入口に既に博物館への案内板が欲しいなということと、それから地下に発掘の遺跡がありますよね。あれもよくアナウンスを聞いたりしてみると興味深いものですし、足跡がありますので、こういったものも博物館に用がなくても、ちょっと足を延ばしてみただききっかけになるのではないかなと思っています。ご検討ください。

(菊池宏美管理係長)

ご意見ありがとうございます。確かにですね、童話村の方からいらっしゃるお客様も年々増えてきている状態にあります。と言いますのが、周辺施設との共通券というものをご利用になる方が多いですので、頂戴したご意見を参考にさせていただきながら、よりわかりやすい博物館づくりというところを心がけてまいりたいと思います。

(佐藤由紀男会長)

直接的な今の進捗状況とは少し関係ないですが、ここの博物館では外国人の方で入館される方が増えているというイメージはありますでしょうか。

(菊池宏美管理係長)

コロナ以降ですね、令和6年ぐらいからやはり外国のお客様が増えてまいりました。

どこからいらっしゃいましたかというデータは取っていないのですが、受付業務を行う中で、やはり英語など使ってお話される方が増えてまいりましたので、受付業務の者も英語はなかなか話せないものですから、表示類など、そういったところで工夫をしたり、今年度からは、試みとして常設展示の方で解説文に英語表記にも飛べるように、二次元コードを設置しているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

このところ市町村ぐらいの規模の博物館でも、パネルですとか案内板にですね英文表記が出されているところが増えてきておりますので、隣の北上市博物館はここよりもだいぶ規模が小さいのですが、この間の仏像の特別展をやった時には、パネルも全て英文と両方表記していましたので、そうした流れがあるということをやはりそうしたものを必要とするお客さんが増えてきているということなので、二次元コードがあればね、もうほとんどの方がスマホ持っていますからそれで対応できるかと思うのですが、この場合には、その特別展の規模が隣の北上市とも比べれば極めて大きいですし、それはいいことではあるのですが対応するとなると、大変なのかもしれませんけれども、北上市博物館協議会委員もやっているものですから、担当の学芸員に英文を作るのに時間かかったか聞いたら、今、翻訳ソフトが大分良いこと、また北上市の場合は、市役所の中に英文を作って、それについては全部チェックする部署があるそうなので、そこでチェックを受けているので特別展ですと1日もかからずにできましたよ、そんな手間じゃなかったですよと言っていたので、花巻市に役所として英文をチェックしてくれる部署があるのかどうかかわからないのですが、そういったところあれば余計ありがたいですし、できるだけ可能な範囲で、少しでも外から来るお客さん対応できる施策を少しずつ進めていただければなと思って発言したしだいです。もう既に始めているとのことでしたので、進めていただければと思います。

他にはいかがでしょうか。特になければ、令和7年度事業の進捗状況について終了したいと思えます。以上をもちまして本日の議事を終了いたします。委員の皆様にはありがとうございました。以降は事務局に進行を戻します。

(4) その他

(村田豊隆副館長)

佐藤会長、大変ありがとうございました。

次第4 その他になります。皆様の方から何かございますか。

閉会の挨拶を館長から申し上げます。

(5) 閉会の挨拶

(中村良幸館長)

たくさんの貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

博物館もコロナが明けましてからは、団体客、それから出前授業、テーマ講座、あるいはワークショップにたくさんの方に参加していただくことができております。

先ほど博学連携の話がちょっと出ておりましたけれども、博学連携も2年前までは小学校4人、中学校4人という教員の方々8名で構成しておりましたけど、去年から全部の小中学校から1名ずつ参加いただいて意見を聞いておりますけれども、大変貴重なご意見たくさん出ております。例えば考古学でのコーナーでは、専門用語が難しすぎるとか、それから歴史の方ではですね、できるだけその教科書と繋がるようなワークシートがあればいいなというようなことの意見をいただいておまして、順次それらを検討しながら、修正していきたいと考えております。

それから、常設展示の方でも解説の仕方など、そういうことにもいろいろご意見をいただいておりますので、大変いい活動になるのではないかなと考えております。

また、先ほどアプローチの件がありましたけれども、現在博物館のリニューアルの検討の中に、そのアプローチについてもございますし、現在博物館の駐車場というのは下の方の砂利のところからのアプローチですとなかなか雨が降ったりするといろいろすると難しいこともありますし、親切ではない案内になっているなということで童話村も含めてですね、この博物館に来るアプローチについての検討も進めておりますし、同じくインバウンド対応についてのことも検討の材料の中に入っておりますので、リニューアルも含めて進めたいというふうに思っております。

今年もまだこれから展示会が続きます。明日からは「戦後80年 戦争と花巻」展がありますし、古文書講座も今まで学芸員がやっておりましたけれど、今年度は東北学院大学の兼平先生に講師をお願いしまして古文書講座を開くということで、兼平先生には市史の近世部会の部会長をやっていただいておりますけれども、今年から北上川の舟運、江戸時代からの舟運というテーマで調査をしていくということですので、その成果もいつかは展示に反映させていきたいなというふうに考えているところでございます。

今後とも皆さんの貴重なご意見をいただいて博物館の運営に役立てていきたいと思しますので今後ともよろしく願いいたします。どうも本日はありがとうございました。

(村田豊隆副館長)

以上をもちまして令和7年度第1回花巻市博物館協議会を閉会いたします。本日はお忙しいところどうもありがとうございました。